

PG A-6
個別支援における意思決定支援の教育方法1
(現任研修演習編)

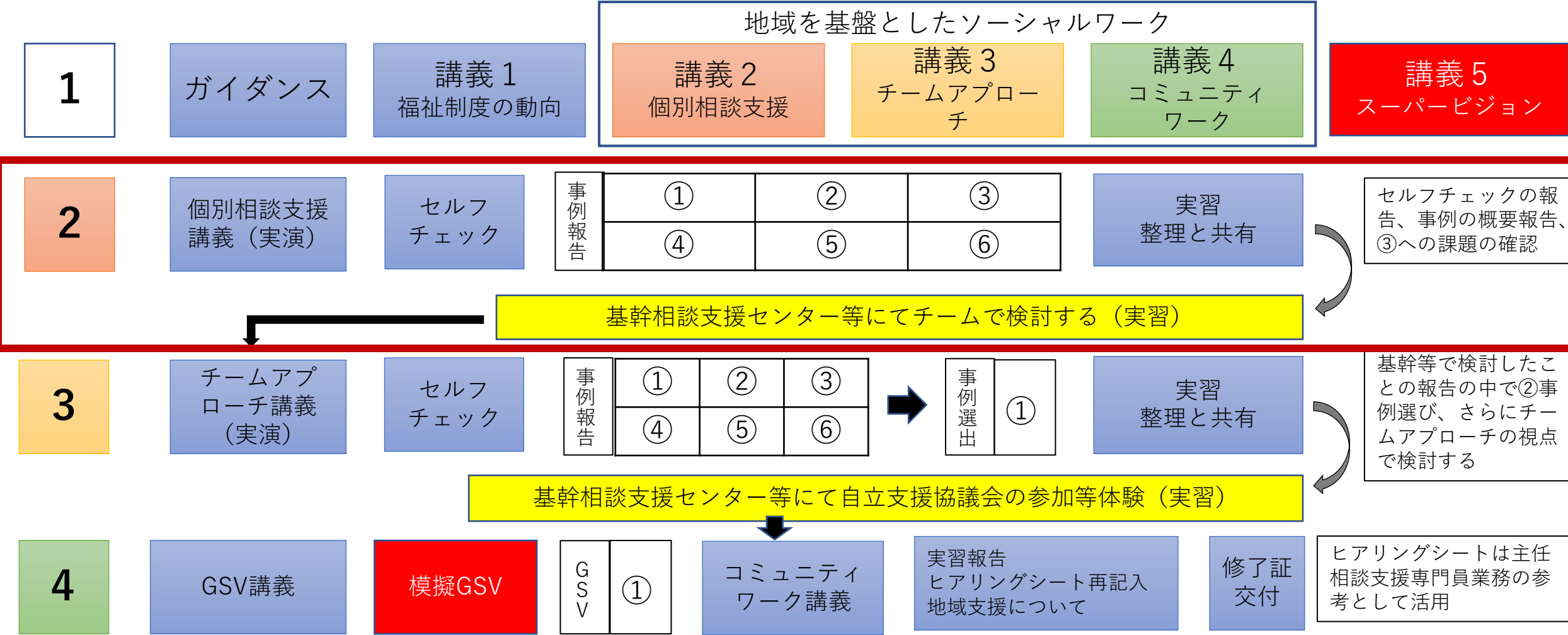
講 義
6月21日(金) 9:20～9:50

長野県 上小圏域基幹相談支援センター
所長 主任相談支援専門員
地域生活支援拠点コーディネーター
橋詰 正

現任研修の構造

獲得目標

- ①相談支援の基本的業務を確実に実施できる。
- ②チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践の中でチームアプローチが実践できる。
- ③コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルの活用等)の理論と方法を理解し、実践できる。
- ④スーパービジョンの理論と方法を理解し、助言・指導を受けることの必要性を理解する。



個別相談支援とケアマネジメント

【獲得目標】

- ①本人を中心とした個別の相談支援の実践に必要な相談援助技術について説明できる。
- ②自身の個別の相談支援実践を振り返り、維持・向上すべきことに気づく。
- ③個別の相談支援の実践事例を振り返り、検討することで個別相談支援の能力の向上を図る。

【学習ポイント】

①知識と実践(事例)の結び付け

意思決定支援の展開/インテーク/アセスメント/モニタリング

②個人演習・セルフチェック

意思決定、インテーク、アセスメント、モニタリングのポイント

③実践報告・検討を通じた個別支援の能力の向上

意思決定のポイントとの結び付け/信頼関係の構築や自己肯定感を高めて行く支援の展開/助言や指導を受けることの重要性

事前課題で事例作成

作成事例の内容を、受講者に伝えることが重要
【令和5年度 相談支援従事者指導者養成研修での課題】

次の演習テーマとします。

演習講師の養成

演習をスムーズに目的に沿って進める上では、各グループの演習講師が司会者の進行やGSVの展開でのファシリテート機能を発揮して頂く必要があります。

次の演習テーマのとします。

演習

個別相談支援(意思決定支援)

重要ポイント(研修ツールである事例)

【事前課題の説明】

実践事例が、意思決定支援がイメージされて行われているものであること

1. ミニ講義

研修事例によるミニ講義により、意思決定支援、セルフチェックリストの記入の講義

2. 演習

- (1) 事前課題の報告と6名全員の事例のグループ検討(グループ)
- (2) 実地研修の課題整理と演習講師からの助言
- (3) セルフチェックによる振り返り
- (4) 実地研修への課題の理解

ミニ講義と演習の実践

研修事例によるミニ講義により、意思決定支援、セルフチェックリストの記入の講義

- 利用者のニーズと診断(ラベリング)の危険性

利用者の障害特性を正しく把握し、利用者と環境の相互関係を理解から支援に結びつけていく

- 見立ての必要性

障害の評価ばかりでなく、利用者のストレングスに着目し、個々の利用者の障害特性に基づいた支援的な具体的な見通しを立てる

- 診断と支援

診断は短所・支援は長所に着目

- 実践事例の紹介

プロフィールと事例の概要/主訴(本人・家族等)/本人を取り巻く関係図/相談の経過/情報入手⇒整理・統合(アセスメント)/利用者と相談支援専門員の関係(先入観)/意思決定支援の再確認/見学・体験への相談支援(意思決定支援)/繰り返しのアセスメントとケアマネジメント実践)

実習例（1回目）

- 演習1日目で個別支援(意思決定支援)に関する明確化した課題の解決に向けて、地元圏域へ戻り、基幹相談支援センター等(委託相談支援事業所含む)により、スーパービジョンの体験をする。
- ※ ここでは、個別支援に関する意思決定支援に特化したスーパービジョンの展開として整理する。

現任研修 実習 報告書①

1. 実習で取り組む内容や基幹相談支援センター等の共有方法

演習前に受講生が記入

①自己の振り返りや実践報告・検討を通して確認された支援者自身の気づき・グループメンバーからの助言
②実習期間で行う取り組む内容
グループメンバーからの助言に優先順位をつける。
②について基幹相談支援センター等との共有方法や必要とする助言（アポイントも含む）
演習講師から助言 取り組む内容が漠然としてしていると、実習期間に行う内容が不明瞭となるため、演習講師が<u>助言</u>と<u>実習で対応可能な内容かを判断</u>して伝える

本シートを実習に持参して、気づいた事・学んだことを、赤字で記入する。

実 習

実習1

実習への送り出しは、各グループの演習講師の確認で研修効果が大きく左右する

2. 実習期間に取り組んだ内容・効果・基幹相談支援センターとの連携

実習後に受講生が記入

1-②の取り組みとその効果
基幹相談支援センター等との共有内容や助言等
実習期間の気づき（考察）

現任研修 実習 報告書②

演習時に受講生が記入

1. 地域の相談支援体制・（自立支援）協議会

地域の相談支援体制について（指定特定・委託・基幹が担う役割や機能がどのように整理されているか）

活動エリアに戻り、相談支援を展開する上で、知り得ておくべき情報
相談支援の展開の中で、相談できる機関や市町村の相談体制など

（自立支援）協議会について（協議会の役割や機能がどのように整理され、展開されているか）

地域課題を取り上げて協議している仕組み（相談・解決の糸口）

実習時に行ってくること（相談体制や協議会について、どのようにして調べてくるか）

演習講師から助言

取り組む内容が漠然としてしていると、実習期間に行う内容が不明瞭となるため、演習講師からの助言と同意が必要

本シートを実習に持参して、気づいた事・学んだことを、赤字で記入する。

実 習

参考資料(実習2)

実習への送り出しは、各グループの
演習講師の確認で研修効果が大きく左右する

2. 実習時の取り組み内容・効果・基幹相談支援センター等との連携

実習後に受講生が記入

相談支援体制について分かったこと（実情や課題など）

（自立支援）協議会について分かったこと（実情や課題など）

研修終了後、地域支援をどのように展開していくか（基幹相談支援センター等との連携も含む）

PG A-6

個別支援における意思決定支援の教育方法1(現任研修演習編)

演習 ロールプレイ

【個別支援における意思決定支援の教育方法1】
(現任演習編)

6月21日(金) 10:05~10:45

1)アイスブレイク【1名2分×6名、役割分担8分=計20分】

2)事例報告・検討【発表時間1名30分】

事例の読み込み【3分】/事例報告【7分】/事例の印象や質問【10】/意思決定支援の展開/検討課題の支援方法の検討【10分】

・時間調整は演習講師が行う。質問と支援方法を同時に述べることも想定されるためファシリテーションを行う

○報告(現任者としての実践の振り返りの機会である)

1)読み込みの時間の中で7分程度で報告できるようまとめる(ケースレビューの力を着ける実践準備の場である)

2)要点をおさえ端的に説明、説明にあたっては解釈と支援経過の説明を中心に行うが、意思決定支援についても報告するよう指示する

3)事例提供者が何を検討したいのか、検討したいことに対してどのように取り組んできたかを中心に説明するよう指示する

○質問

1)検討課題を確認する。曖昧な場合は、「〇〇について困っているのか、〇〇について検討して欲しいのか」と検討したい内容を具体的ににする

2)意思決定支援のポイントを留意して支援が行われているか質問するよう促がす

3)オープン・クエスチョンを避ける(具体的に何を知りたいかが分かる質問をする)

お父さんはどんな人ですか？→お父さんの性格？仕事？協力？など何を聞いているのか分からない

4)質問・発言の意図を聞く

質問が漠然としていると、答える側も何に対して質問しているのか分からないため、「もう少し具体的に質問して欲しい」「どうということでお聞きになりたいのか、もう少し具体的に言ってほしい」など促がすことで、質問した人も自分が何を聴きたいのかが明確となる

5)質問者に解答か何が分かったかを述べてもらう

質問する→答える→次の質問に移るというやり取りが一般的だが、時に、質問する→答える→答えを聞いて何が分かったか(判断できたか)を尋ねる場面を作ることで、何かしらの理解に結びつけることができる

(検討)

1)セルフチェックシートを参考にして意思決定支援の展開について確認する

2)検討課題を明確にして具体的な支援方法を検討する○留意点

演習構造(グループスーパービジョンのステージ)

○留意点

*アイスブレイク時にグランドルールを確認する

*報告者が時間内に報告できるよう時間管理等を行う

*質問が出ない場合は、報告を受けての感想や事例の印象を述べてもらうよう促がす

*報告者は検討課題の対応を協議している間は意見を述べないように注意

本事例は講師が 発表します。		司会	書記	質問・助言①②③④		
書式4	演習役割シート				グループ	
	発表者	司会	書記	質問・助言①	質問・助言②	質問・助言③
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						

書式1－①

事例報告書

N圏域

氏名

〇〇 ●●

イニシャル	国立(くにたち)様	性別	男性	年齢	50歳	障害名(程度):	療育手帳 B1
						障害支援区分:	区分 2
福祉サービスの利用状況:			就労支援(A型)事業所に8年間通所。同法人運営のグループホームを利用中				
検討したいこと(相談支援専門員が支援の中で困っていること)							
安定した生活状況にあるが、グループホームのスタッフとはあまり関係が築けず、一人で外出することが多い。定期的にグループホームを訪問し、面談の中でグループホームの生活に不満そうだが、どうしたいのか？解決の糸口がつかめない。							
主訴(相談に来た理由、どうしたいか)							
グループホームでは、あまり話したくない。もっと自由な新しい生活がしたい。							
利用者の特徴							
ぽっちゃりした体格で、穏やかな表情。寡黙であり人との関わりを求めない。外出も一人ですることが多い。人を責めたり、怒ったりすることは少なく、なかなか自分の想いを伝えにくい。保佐人(後見人)には、小遣いの要求はしっかりできている。							
生活歴(どのような生活を送ってきたか、楽しかったこと、興味を持ったこと、悲しかったことなどのエピソード)							
山間地で生まれ、中学校卒業後に住み込みで就職したが、数年で職場の人間関係に悩み自宅に戻り、父母と暮らしながら地元企業にを転々としていた。父母の他界後は、市役所が介入し障害者手帳の取得や年金取得と成年後見制度の活用で保佐人が選任され、老朽化した自宅からグループホームに移り、就労支援事業所へ通うようになって8年が経過した。仕事や人間関係で嫌になると、逃避的に出かけてしまう事があったが現在は無い。週末の休みは、市内のデパートへ独りで出かけることが多い。平日も、食事をキャンセルして外食することも見られていた。							
社会的状況(家族関係・友人関係・学校・職場・福祉サービス利用など)							
生活習慣病で内科や、膝が痛くて整形外科にも通院している。イライラすることもあり精神科の医師には落ち着ける薬の処方もあり、通院の頻度が増えているが、グループホームのスタッフが仕事に影響しないように、出勤前や夕方仕事帰りに通院の送迎・付添をしてくれている。 一緒に働く仲間の中には、一人暮らししている利用者が数名いる。							

①誰が困っているのか(本人・家族・学校・職場等)＊複数可

本人 ・ 相談支援専門員

②いつ頃から困ったことが生じたのか

相談支援を始めて、1年前くらいから今の生活の不満が見られるようになった気がするが、本音を聞けないままモニタリングで支援を継続して来た。

③主訴に対して、様々な情報からあなたはどのように解釈したか(見立て)

アパート形式のグループホームで自分の居室空間も確保されていることから、集団で食事を摂る場面は少しストレスがあるかもしれない。働く環境は支援者も居て、人間関係で困らず働けているので満足している。本当は、一人暮らししたいのかも知れないが、通院や生活費を考えると我慢しなくてはいけないと思っている。

④検討したいことに対して、あなたはどのように支援をしてきたか(支援経過)

グループホームでは、何が嫌なのかを聞いても応えてくれない。通院の時に支援してくれる生活支援員との関係での大きなエピソードは無い。定期的なモニタリング会議でも、頑張っている姿を皆で賞賛して応援を続けて生きている。保佐人も、働いた収入の中で十分な小遣いも渡されている。本人の希望を支援関係者が受け止めて、今後の応援の方向を導き出したいと思い【一人暮らし】を会話のテーマとして訪問を続けた。

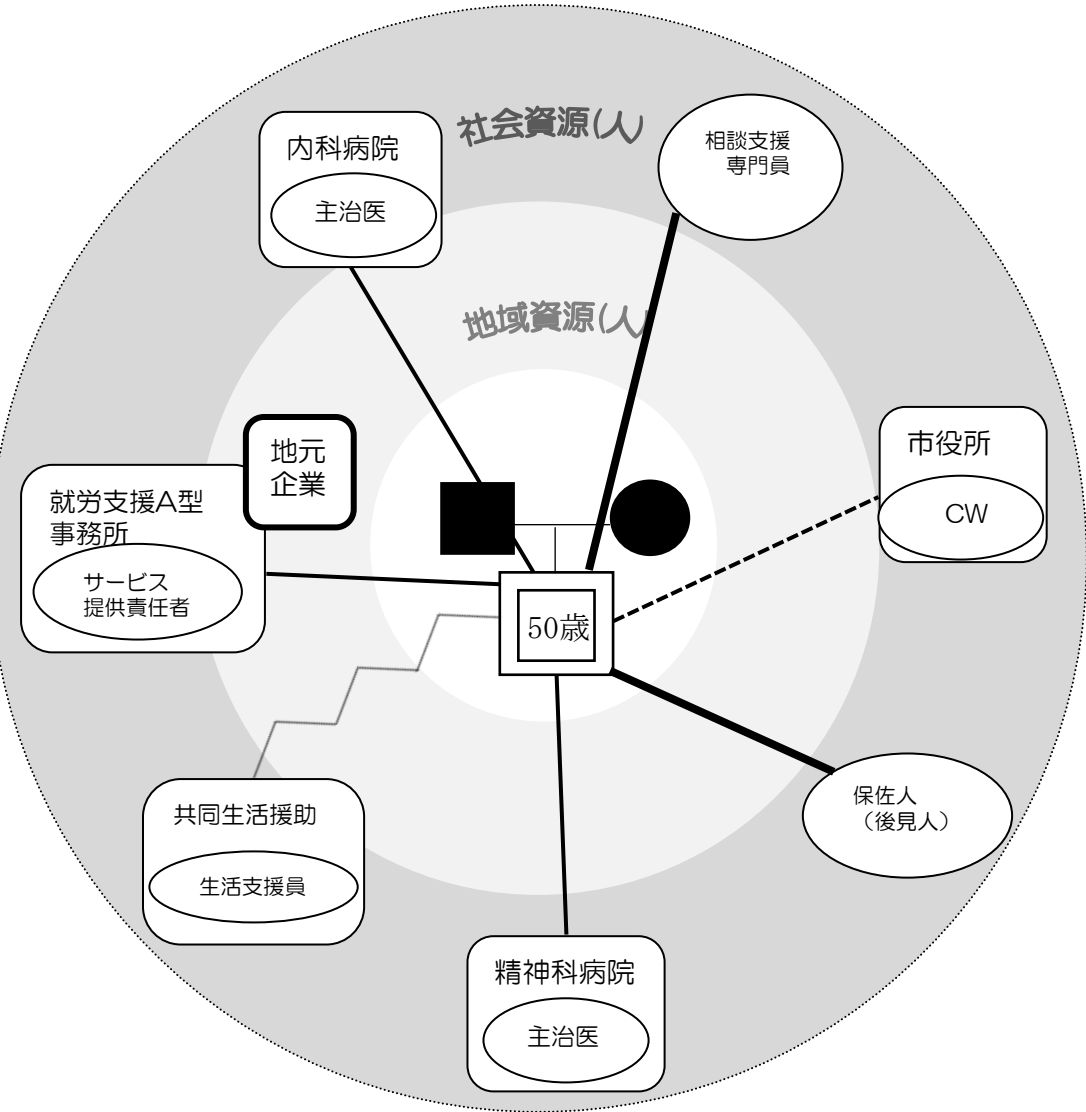
⑤その結果改善されたか

『それもいいね』(一人暮らし)と、笑顔で返事をしてくれることが増えた。洋服など一緒に買い物(外出)に行く機会を持つことが出来た。いくつかの通院希望は相変わらず多いが、グループホームスタッフと通院しながら働き続けている。何となく、今の生活から新しい生活が始まるような期待感が本人の言動から伝わってくる気がする。

(検討)意思決定支援の展開で気をつけること

(検討)検討課題に対して具体的な支援方法

モデル事例



書式1-② エコマップ

N 圏域
氏名
国立 様

チームアプローチにおける支援方針	健康で今の生活を継続する
チームアプローチの展開で困っていること	相談支援専門員以外の支援者は、一人暮らしは無理だと感じている

利用者と地域資源(人)の関係性

生活するグループホームは、公共の交通機関や自転車で行ける範囲に、デパートや映画館・新幹線駅などがある。自治会などとはあまり付き合いが無く、地域行事などとの関係は無い。

利用者と社会資源(人)との関係性

特に強い関係性を持つほど関係性の強い人はいない。
その点では、グループホームのスタッフとはあまり良い関係ではない(生活支援員以外)

相談支援専門員と地域資源(人)および社会資源(人)との関係性

相談支援専門員が住む地域行事(神輿祭り)に誘ったら、喜んで参加した。外出などもするが、店員など地域の人と関係を作ることは難しい。

チームアプローチの展開でこまっていることへの対応策

グループホームの生活から、新しい生活をするためにチームで応援できることは、新しい生活とは具体的に何を願っているのかを共有するサービス担当者会議を開催すること。

1. 意思決定支援

- ①相談支援において「本人の意向を無視していないか」を意識することの必要性
- ②相談支援において「本人の言葉の意味を吟味しているか」をその都度考えることの必要性
- ③相談支援において「支援者の都合が優先されていないか」を常に考えながらかわることの必要性
- ④計画作成時「既存の社会資源だけが支援の前提となっていないか」を見直すことの必要性
- ⑤相談支援のプロセスにおいて「先に支援者の結論ありきで話を進めていないか」を振り返ることの必要性
- ⑥本人や家族等から育ってきた環境の中で興味を持ったこと、楽しかったこと楽しい時や嫌なときの表情等を知るこの意味

2. インテーク

- ①信頼関係の基礎を構築するための大事な場面
- ②福祉サービスに限定したやり取りではなく、主訴等の背景を丁寧に聞くこの意味
- ③今後の相談支援の見通しを説明し、利用者から同意を得ることの必要性

3. アセスメント

- ①アセスメントは、利用者から表出さえる全てが大切な情報である
- ②生活歴を丁寧に聞くことは、利用者への理解が深まることになる
- ③ストレングスは、健康な側面に着目した「本人のポジティブなところ、強み」であり、支援には欠かせない視点であることから、対話の中で常に意識する
- ④情報の整理は、利用者から得た情報をその都度整理し、エコマップやジェノグラム、ストレングス票等のツールを活用することの有効性
- ⑤アセスメントの能動性・構成力を高めるには事例検討やGSVなどの場面に参加することの重要性

4. モニタリング

- ①基本相談で得られた情報による支援者の見立てがモニタリングに影響している
- ②サービス利用の有効性だけではなく、人との関係性や環境の変化など、多角的な視点をもってモニタリングを行うことの重要性

ロールプレイの配役決め

- 発表者(事例提供者役)

※本日は、各グループの講師が努めます

- 司会(進行役:ファシリテーター)

※スーパーバイザー(演習では、演習講師がファシリテーター役)

- 書記(記録係)

- 質問・助言役(グループメンバー) 3名

事例提供者 アイディア記録
表

圏域	N	氏名	国立(くにたち)様
----	---	----	-----------

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

【個別支援における意思決定支援ロールプレイ】

事例の読み込み【3分】/事例報告【7分】

・事例の印象や質問【10】

・意思決定支援の展開/検討課題の支援方法の検討【10分】

10:15～10:45

【個別支援における意思決定支援ロールプレイ】

グループごとの振り返り

10:45～10:55